

フォースタートアップス株式会社（7089）

2022年3月期通期 決算説明会（2022年5月24日実施） 質疑応答サマリー

質問1：2022年の3月期は50名採用のところを28名にとどまったとのことで、コスト消化遅れが多いと思います。この期の利益はかなり高水準ですが、出すぎたと見たほうがよいでしょうか？

回答：そのご認識で正しいと考えております。また、想定人件費の未消化だけでなく、それに合わせた育成コストもかからなかったという点も含めまして、想定以上に利益が出た期だと考えています。本来でいうと、どの水準で着地すべきであったのかということですが、8月に開示しております4億5,000万円という数値が、当初想定した利益水準だと考えております。もちろん、業績も好調でございました。特にタレントエージェンシーにおける採用支援サービスが高い成長を示しておりますので、それも合わせて、結果5億円程度というのが、本来の私どもの着地イメージだったのではないかと考えております。

質問2：オファー金額の急騰が、受取手数料の押し上げを通じて、かなり追い風だったとのことですが、この環境の持続性はどうか？

回答：今期も継続すると考えております。といいますのは、オファー金額がご時世だから下がっていくということはないと考えているからです。現時点においても、スタートアップ企業は、外資IT関連ならびに国内大手の企業さまとともに、「War for Talent」の中で生きております。そういった中で重要視されるのは、当然ながら採用競争力と考えています。スタートアップ企業はここで勝ち抜く所存でおりますので、人材採用において給与水準を下げるということはないと考えています。

質問3：2023年3月期のオープンイノベーションの見通しについて、説明をお願いしたい。

回答：オープンイノベーションに関しましては、特に現在、Public Affairs、スタートアップの政策支援が非常に高い水準で成長しております。内閣府、JETROなどをはじめとした政府官公庁からの受諾案件も増加しております。さらに、STARTUP DBもデータベース課金をスタートし、堅調に推移しておりますので、今年度も成長を見込んでいます。

質問4：2023年の3月期に50名の純増を必要と、必達とされる中で、特に効果が期待される採用・人材定着の施策についてお聞かせください。また、仮に純増数が計画に届かなかった場合、利益が上振れる要因となるのでしょうか？

回答：採用計画が未達の場合は、利益上振れ要因となる可能性が高いと考えています。採用・人材定着の施策については、ウルトラCの施策はなく、重要なポイントとしては、採用における役員のコミットメントが重要と考えています。また、採用チームの増員、人事制度のアップデート、待遇改善など、人材関連に関連した様々な施策を打ち、着実に実行していければと考えております。

質問5：採用について前期は大幅未達になったにもかかわらず、今期はやたら進捗が早いのはなぜでしょうか？

回答：前期の第2四半期から第3四半期にかけて、採用計画の未達が生じそうであるということを踏まえ、抜本的に採用強化を行ってまいりました。その結果、第4四半期からは中途採用は回復しております。4月は、新卒社員の入社に加え中途社員の入社が集中したこともあり、大きく増加しております。引き続き全施策を実行し、より早い入社に向けた活動を行っていければと考えております。

以上